

別記様式（第6条関係）

令和8年 6月 16日

清水町議会議長 山下 清美 様

清水町議会議員 橋本 晃明

研 修 報 告 書

清水町議会議員研修要綱第6条の規定により、次のとおり成果を報告します。

記

- 1 研修名（主催者）..... 令和8年第1回市町村議会議員特別セミナー（市町村職員中央研修所）.....
- 2 研修日時 令和8年4月20日（月）～21日（火）.....
- 3 研修先 市町村職員中央研修所（千葉県千葉市）.....
- 4 研修目的 議会の活性化に資するため。.....
- 5 成果（具体的に）.....  
今回の研修会では、農業の新しい形、これからの議会のあり方、生成 AI による議会の変革、脳科学から見た習慣の重要性について専門家の講演を聞いた。  
せっかく生成 AI の活用について学んだので、講演要旨の要約については生成 AI を利用してみた。.....

1. 「和郷の取り組み」要旨

（1）WAGO Agri College（WAC）による新規就農・移住定住支援  
和郷は、総務省の地域力創造アドバイザー制度（民間専門家活用：610万円/年）を活用し、自治体と連携して新規就農・移住希望者を地域へ呼び込む仕組みを構築している。.....

資料には「就農や移住希望 79%」とあり、研修後の定着意欲が高いことが示されている。.....

主な特徴

地域課題の調査 → 募集 → 実地研修 → 分析 → アフターフォローまで一貫支援

研修生の将来像をポートフォリオ化し、地域とのマッチング精度を向上

地域住民との交流を重視し「地域に根差す将来像」を描ける環境を整備

令和 6- 7 年度で応募 245 名、採用 125 名、12 地域で実施

(2) 雇用体制強化事業による農業法人支援

農業現場の人材不足に対応するため、和郷は自治体・農業法人と連携し、働きやすい就労環境づくりを支援している。

主な支援内容

就業規則整備、労務管理改善

従業員満足度調査

社労士相談窓口

採用広報 (HP・チラシ・SNS 広告)

労働環境を発信するウェブサイト制作

資料には「従業員満足度調査 (A4 両面)」「求人広告の掲載」など具体的な実績が示されている。

(3) 地域力創造アドバイザー制度の活用

自治体が外部専門家を招へいし、地域課題の整理、就農受入体制整備、広報戦略、研修設計を行う仕組み。

資料には「年度内に延べ 10 日以上招へい」「民間専門家活用は 610 万円/年」と明記されている。

和郷はこの制度を活用し、自治体の就農・移住施策を総合的に支援している。

## 2. 「農業の新たなかたち」要旨

(1) ENJOY! AGRI-INNOVATION の理念

和郷は「農業を魅力ある産業に変え、次の世代へ」を掲げ、

農業を“食材製造業”として捉え直し、生産・加工・販売・観光・教育までを統合した総合農業モデルを展開している。

資料には

「農業に携わる人の働き方を、毎日を、もっと楽しくしたい」

という理念が示されている。

## (2) 和郷グループの6次産業化モデル

和郷は1次（生産）～3次（販売・観光）までを一体化し、地域に雇用と価値を生むモデルを構築している。

### 主な事例

和郷園（生産者100戸）：JGAP/ASIAGAPを活用した高品質生産

加工事業（カット・冷凍・ドライ）：規格外品の活用、もったいない削減

THE FARM（農園リゾート）：年間25万人来訪の農村観光モデル

JAL Agriport：航空会社との協業による6次産業化

南相馬復興アグリ：震災復興と雇用創出

バイオマスプラント：野菜残渣をエネルギー化し循環型農業を実現

## (3) 人材育成とデジタル化

AFJ オンラインスクールによる後継者育成

外国人材の高度化（現地短大・専門学校と連携）

出荷管理・トレーサビリティのDX化

JGAP完全取得を目指した生産情報の標準化

### 総括

和郷は、

WAGO Agri Collegeで「人を地域へ呼び込み」、

6次産業化モデルで「地域に仕事と価値を生み」、

循環型農業とDXで「持続可能な農業の未来」を描いている。

私たち北海道の農業者から見ると、植物工場をはじめとする工業的な農産物生産は別

の世界のように感じられるが、

“人が集まり、働き、暮らし続けられる農業地域をつくる”

という、自治体が直面する課題に対し、実践に裏付けられた総合的な解決策の一つを提示しているといえるだろう。

## 2. 「これからの地方議会に求められるもの」(勢一智子講師)

### (1) 人口減少社会の本格化と地域への影響

日本は急速な人口減少と高齢化が進行しており、特に地方では人口1万人未満の自治体が2050年に40%を超える見通し。

資料では「日本の人口は…2020年から2050年にかけて約2,150万人減少する見込み」とされ、労働力人口の減少が地域運営に深刻な影響を与える。

### 行政需要の複雑化

人口減少に伴い、自治体は以下のような多様で複雑な行政課題に直面している：

少子化対策、移住・定住、空き家、地域交通、買い物弱者対策

カーボンニュートラル、ヤングケアラー、不登校、孤独・孤立、インバウンド対応、多文化共生

資料では「行政需要が多様化・複雑化している」と明記。

### (2) 地方議会が抱える構造的課題

議員の多様性不足

女性議員比率：市17.5%、町村11.7%

60歳以上の議員：市56.5%、町村76.9%

資料では「議員の構成は、性別や年齢構成の面で多様性を欠いており…住民の関心を低下させている」と指摘。

なり手不足・無投票の増加

無投票当選率は町村で23.3%と高く、議会の魅力低下が背景にある。

### (3) 地方議会に求められる改革方向

① 多様な人材が参画できる議会運営

夜間・休日開催

育児・介護への配慮

ハラスメント相談窓口

小規模自治体の議員処遇改善

資料では「勤労者等の議会参画→夜間・休日等の議会開催」と示される。

② 住民に開かれた議会

SNS活用、ペーパーレス化

議会モニター・政策サポーター制度

資料では「デジタル技術を活用した情報発信の充実」と記載。

③ 議会の位置付けの明確化（地方自治法改正）

改正法では、議会を「住民が選挙した議員で組織される議事機関」と明記し、議員の職務責任も規定。

資料では「議員は…住民の負託を受け、誠実にその職務を行わなければならない」とされる。

④ デジタル化の推進

オンライン出席の検討

請願・意見書提出のオンライン化

資料では「本会議へのオンライン出席について…丁寧な検討を進めるべき」とされる。

（４） 地域マネジメントの重要性

人口減少社会では、地域資源（人材・財源・自然資源など）の制約が強まるため、「どこに投資するか」を地域として選択する戦略性＝地域マネジメントが不可欠。

資料では「地域資源をどこに『投資』するか？→地域の将来像を描いて」と述べられる。

地域マネジメントを支える４つの視点

法制度の効果的運用（地方分権改革の活用）

デジタル化・DX

広域連携（連携中枢都市圏、定住自立圏など）

法・組織・部門横断の政策形成

(5) 地方分権改革の進展と活用

第1次改革：機関委任事務廃止、国の関与の法定化

第2次改革：義務付け・枠付けの見直し、権限移譲

提案募集方式（H26～）：地方発の制度改革が可能に

資料では「地方の発意で国の制度改革を推進（地方が主役）」と説明。

(6) 生物多様性・環境政策と地域づくり

講演後半では、環境政策が地域経営に直結する時代背景を解説。

30by30、自然共生サイト、OECM

2030年までに国土の30%を保全

民間・自治体の取組を「自然共生サイト」として認定

資料では「自然共生サイト…民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域」と説明。

地域循環共生圏

都市と農山漁村が資源を補完し合う新しい地域モデル。

(7) 地方議会への期待（まとめ）

講演の締めくくりとして、地方議会に求められる役割を果たすため、多様な価値観を包摂し、若年世代・将来世代の視点を反映することが必要であると強調された。

地方議会は、地域の将来像を描き、限られた資源の投資先を選択する意思決定機関であり、それは全国一律のものではなく、自らの意思によるものであることをあらためて確認した。

3. 「生成AIで議会は変わる」（佐藤淳講師）

主題：生成AIが地方議会にもたらす変化と、議会が取るべき実務的対応。

核心メッセージ：「生成AIは、あなたの議会を進化させるか、消滅させるか。答えはあなたがどう使うかで決まる。」

主要なポイント

## 三つの未来シナリオ

積極活用：資料整理・市民意見分析・会議録要約などで議論の質を高め、政策形成に活かす。

道具化の罠：効率化だけを追うと「AI 原稿を読むだけ」の議会になり、市民との対話が失われる。

不活用のリスク：AI を拒否すると他自治体に遅れ、なり手不足や形骸化が進む。

## 生成 AI の本質的役割

生成 AI は単なる作業短縮ではなく、意思決定の質を高める「思考支援」である（例：論点の構造化、複数シナリオ提示、利害や価値観の可視化）。「生成 AI 活用の本質は、効率化ではない。意思決定の質を高めるための“思考支援”である。」

## 注意点とガバナンス

ファクトチェック必須：AI の誤情報リスク（実例として AI 情報を鵜呑みにして発言取り消しになった事例を紹介）。

機密情報の扱い：個人情報や機密データを入力しない運用ルールが必要。

## 実務的提案（すぐできること）

個人で試す：スマホで ChatGPT 等の無料版を使い、短い要約や問いかけを試す。

事務局で導入：議事録要約や資料分析に NotebookLM 等を試験運用する。

会派・議会レベルの整備：ガイドライン作成、研修、役割分担（事務局が AI 分析、議員は判断と対話）を進める。

## 事例と裏付け

矢巾町フォーラム：市民意見を AI で分析し、報酬・定数・議会の見える化などの示唆を得た事例。

滝沢市：政策サイクルを回す仕組みと決算審査での議員間討議の改善事例を紹介。

## 結び（要点）

生成 AI は補助脳であり、最終的な判断と責任は人間（議員）にある。議会としては

「活用の利点を最大化」しつつ「誤用を防ぐルールと研修」を整備することが不可欠である。

日頃の議会活動における AI の活用においては、①今自分が疑問に思っていることは近隣やどこかの議会議員も考え、すでに質問しているであろうという視点、②議会、議員が社会から取り残された状況は正常ではないという視点を持ったうえで、わが町の財政やまちづくりの流儀を勘案して意思決定していくことが求められると思う。

### 3. 「心のトリセツ - 脳と習慣の切り離せない関係」(黒川伊保子講師)

#### 概要(要点)

主題：脳の働きを整え、自己肯定感を高める暮らし方と対話術を通じて、個人と組織のパフォーマンスを向上させる方法。

核心メッセージ：日々の生活習慣(睡眠・朝日・食事・運動)と何気ない対話が脳の状態を左右し、自己肯定感や意欲、学習力、対人関係の質を決める。

本文から抜粋(原文の一文)：

「自己肯定感とは、自分の脳に対する信頼」

「生成 AI は…」ではなく、本資料では「脳が目論見通りに動くための暮らし方、しゃべり方、考え方がある」と述べられています。

#### 1 脳を整える暮らし方(実践ポイント)

睡眠の質を上げる工夫：入浴で体表温を上げてから深部体温を下げる、夜間の強い照明を避ける、就寝前の「睡眠儀式」を持つ、換気を心がける。

朝日を浴びる：朝の陽光(9時台まで)がセロトニン分泌を促し、意欲と集中を支える。

朝食の質：トリプトファンを含むタンパク質(魚・大豆・卵)と食物繊維・発酵食品で腸を整えることが脳の働きを支える。

適度な運動：ドーパミンとノルアドレナリンを同時に引き出す運動が、好奇心と集中力を同時に高める。

#### 2 自己肯定感を高める対話術(職場・家庭で使える技)

たわいもない話を復活させる：場の変わり目(始業・会議開始・休憩・帰宅時)に短い雑談を入れることで心理的安全性を作る。

受け止め方の原則：相手の第一声を否定しない。まずは「いいね」「わかる」で受ける。ネガティブな相談には共感表現（「それはつらいね」）を使う。

ダメ出しを避け、提案に変える：否定文は脳に効きにくく逆効果になるため、具体的な提案や肯定的な言い換えを行う。

感謝でクレームを変える：批判的な指摘には「ありがとうございます」「勉強になります」と返すことで防御的反応を和らげる。

### 3 失敗と学習の扱い方

失敗は成長の材料：失敗を評価で罰するのではなく、未来の可能性を広げる布石として扱う。

失敗三カ条（実践）：他人のせいにしない／過去の失敗をくよくよしない／未来の失敗をおどおどしない。

フィードバックの与え方：総論で褒めるより各論で認める（具体的な行動や変化を指摘して承認する）。

### 4 表情と笑顔の重要性

笑顔は脳を前向きにする：表情が気分を誘発し、ミラーニューロン効果で周囲にも伝播する。

リーダーの表情が場を作る：上司や親の表情が周囲のやる気や子どもの一日の気分に大きく影響するため、表情に責任を持つことが重要。

### 5 実務的な提案（すぐできること）

職場・会議での導入例：会議冒頭に 1～2 分の雑談タイムを設ける。場のトス役はリーダーが率先して行う。

家庭での習慣：「いってらっしゃい」「おかえり」を笑顔で行う習慣を意識する。

評価とフィードバックの見直し：成果だけでなく「目論見との合致」を確認して承認する仕組みを作る。

失敗を許容する文化づくり：挑戦を称える言葉（「ナイスチャレンジ」）を日常化する。

まとめ

自己肯定感は脳への信頼であり、日常の習慣と対話で育てられる。

たわいもない会話、良質な睡眠、朝の光、栄養、運動、そして肯定的なフィードバックが、結果として個人と組織の持続的な力になる。

脳科学者黒川伊保子氏は、人工頭脳の開発に携わり、AIの育て方の重要性を説いている方と理解しているが、人間の生理生態に基づいた健康的な思考を持ってその課題に向き合うということが大切であるというお話は実に腑に落ちることであった。

This image shows a full page of white paper with horizontal dashed lines, typical of primary school writing paper. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.



